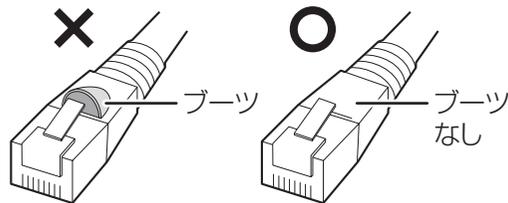


マルチエネルギーモニタ設置工事および接続方法

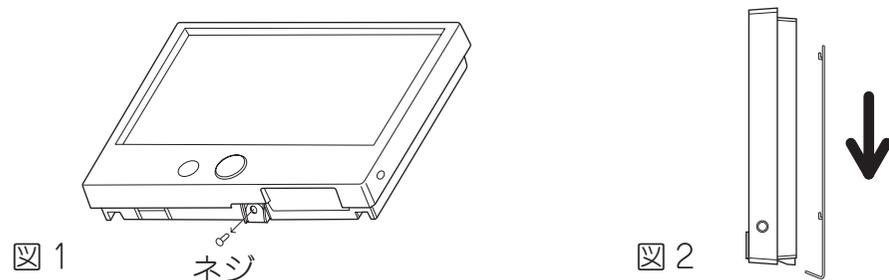
❗ 設置工事の前に

- パワーコンディショナ本体側の DIP スイッチのアドレス設定を確認してください。**正しく設定されていないと、試運転時、モニタに「自動停止中」と表示され、運転を開始できません。**
DIP スイッチの設定方法は、パワーコンディショナに同梱の設置工事説明書をご参照ください。
- インターネットへの接続について無線接続、有線接続のどちらを選ばれるかお客様に確認してください。無線接続をご利用の場合は、LAN ケーブルは必要ありません。将来、インターネット接続される場合は、無線接続、有線接続のどちらかを選んでください。電波状況によって無線接続が不安定な場合は中継器をご利用ください。動作確認済み機種一覧は当社ホームページに記載しています。
(https://jp.sharp/sunvista/feature/monitoring/taiou_kishu_ichiran.html)
- LAN ケーブルは市販品をお買い求めください。LAN ケーブルを接続する場合は、**ブーツのない** LAN ケーブルを使用してください。ブーツの部分が取り付け金具と接触し、取り付けができなくなります。
また、カテゴリー 5 / 5e / 6 / 6e / 7 のストレートケーブルであること、長さが 15m 以内のものを使用してください。



1. モニタ本体から取り付け金具を取り外します。

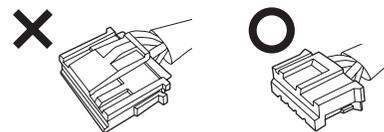
モニタ下側にあるネジ 1 箇所を外し、取り付け金具を下にスライドさせ、本体から取り付け金具を取り外します。



2. 取り付け金具を壁に取り付けます。

取り付け金具をネジで固定する際は、ネジを締めすぎないように注意してください。取り付け金具が変形し、モニタの取り付けができなくなります。(特に、電動ドライバーを使用される場合は、ご注意ください。)

取り付け金具の角穴より通信ケーブルを引き込みます。通信ケーブルの両端のコネクタの大きさは異なり、小さい方をモニタに接続しますので、サイズを確認して引き込んでください。



LAN 接続する場合は、LAN ケーブルも同じ角穴から引き込みます。ケーブルを引き出した後、取り付け金具の "↑UP" が上を向くようにネジで固定します。(図 3) 取り付け金具と壁の間に各ケーブルをかみこませないように、注意してください。通信ケーブルと LAN ケーブルが壁内に落ちないように注意してください。

- ①コンセントボックスに取り付ける場合は、
2 個口用コンセントボックスに取り付ける場合は、下図の A のネジ穴を、(図 4)
4 個口用コンセントボックスに取り付ける場合は、右下図の B のネジ穴を使用し、(図 5) コンセントボックスに付属しているネジで固定してください。
- ②壁面に取り付ける場合は、モニタに同梱されているネジ (M4×16) を使用してください。

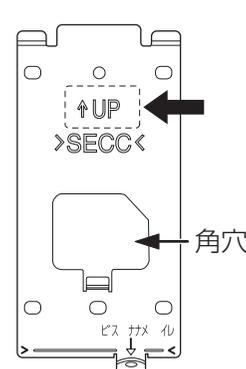


図 3 : 「↑UP」の表示

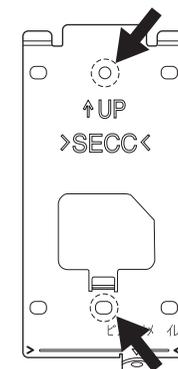


図 4 : A のネジ穴

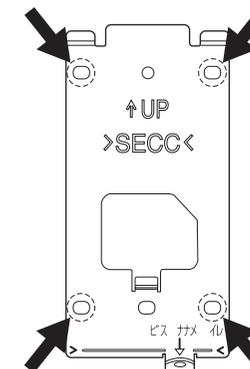


図 5 : B のネジ穴

3. 通信ケーブル・LAN ケーブルをモニタに接続します。

モニタ本体裏側のコネクタ A に通信ケーブルのコネクタを接続します。LAN 接続する場合は、コネクタ B に LAN ケーブルを接続します。各々のコネクタは確実に奥まで差し込んでください。差し込んだことを確認後、ケーブルをクランプに挟み込んで固定してください。

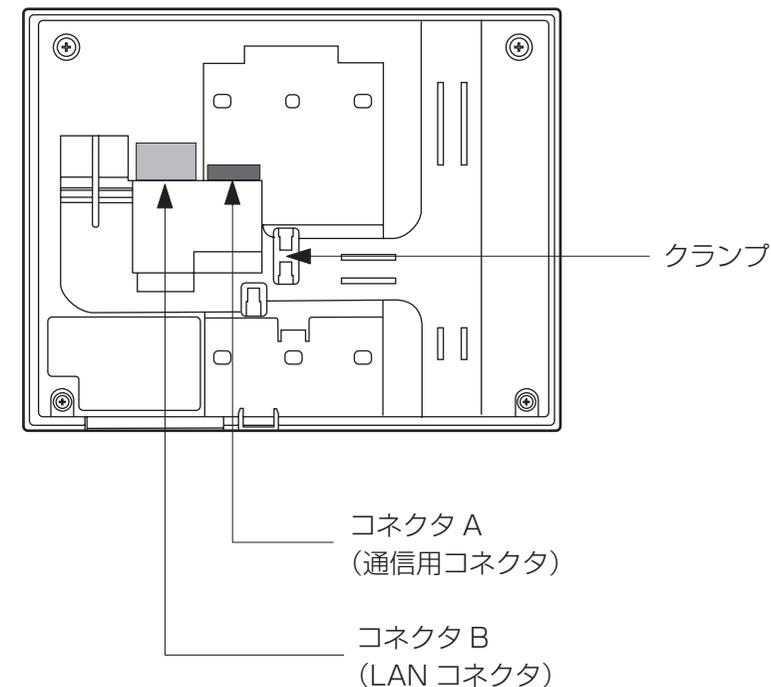


図 6 : コネクタの配置図

(裏面に続く)

4. ケーブルをモニタの配線溝に通します。

各ケーブルがコネクタから溝の間でクロスしないよう、各々のケーブルの配線経路は、下図に従ってください。各ケーブルは上出しもしくは下出しにして配線してください。

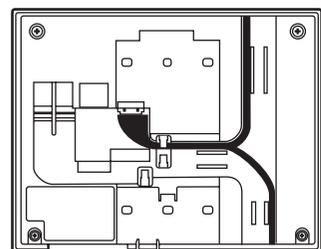


図 7：通信ケーブルの配線経路

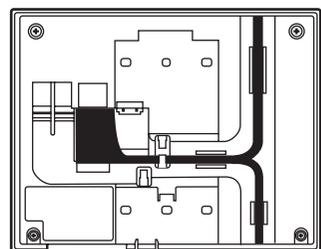


図 8：LAN ケーブルの配線経路

隠ぺい配線の場合はケーブルを配線溝に通す必要はありません。ケーブルがクランプに挟み込んであることを確認してください。壁外へ露出配線する場合は、下図のとおりとなります。線を通す側（上 / 下）のツメを折って配線してください。

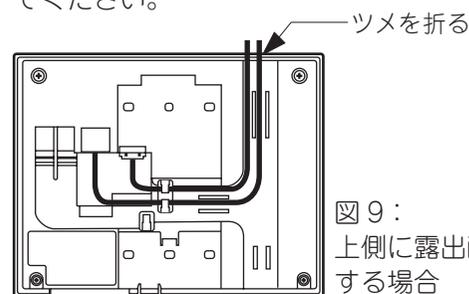


図 9：上側に露出配線する場合

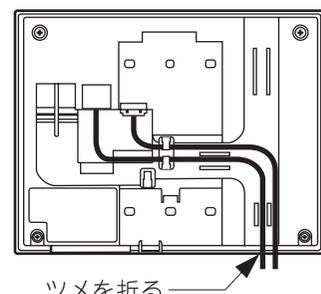


図 10：下側に露出配線する場合

5. モニタを取り付け金具に取り付けます。

取り付け金具とモニタ本体の間に、各ケーブルを挟まないように注意してください。左右方向は、モニタ本体下部のネジ穴と取り付け金具の固定穴の位置を合わせます。(図 11) 上下方向は、取り付け金具の下部にある >=< の線に、モニタ本体の底面を合わせます。(図 12) モニタ本体を金具に押し当て、下にスライドします。(図 13) 取り付け金具のツメがモニタ本体に掛かっていることを確認してください。モニタ固定用ネジを締め付け、取り付けは完了です。(図 14)

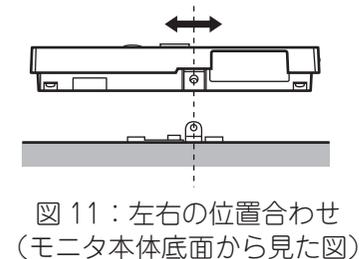


図 11：左右の位置合わせ (モニタ本体底面から見た図)

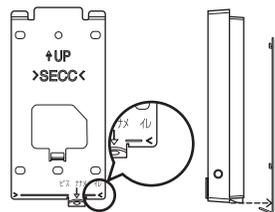


図 12：上下の位置合わせ

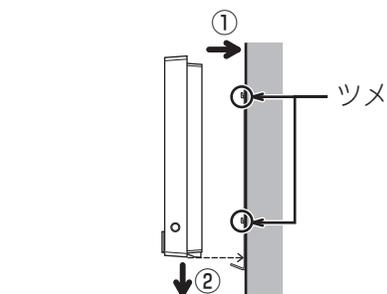


図 13：取り付け金具へのはめ込み ツメにモニタ本体を引っ掛ける

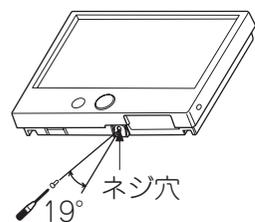


図 14：ネジで固定

タッチパネル上の保護シートを取り除いてください。

6. 運転条件・整定値を設定します。

本設定を行う前に、設置工事マニュアル「太陽光発電システム+クラウド蓄電池システム」をご参照願います。

- 太陽光発電システム、蓄電池のブレーカーおよび分電盤内の電源ブレーカーを全て OFF にし、各装置の試運転前点検を行った後、ブレーカーを入れ、各装置を起動します。

! マルチエネルギーモニタの電源投入から液晶が点灯するまで約 25 秒かかります。

- マルチエネルギーモニタを出荷状態で初めて起動する場合
 - マルチエネルギーモニタが既設置で、出荷状態から設定変更されている場合

! タッチパネル上の保護シートを取り除いて操作してください。

- 日付時刻を入力し、「決定」ボタンをタップしてください。
- 接続機器設定画面が自動で表示されます。

- サービスマンモードに移行します（設置工事マニュアルをご参照ください）。
- 左右の ◀▶ 矢印をタップして「日付・時刻」ボタンが表示されるページに移行します。
- 「日付・時刻」ボタンをタップし、日付時刻を入力します。
- 「接続機器設定」ボタンが表示されるページに戻ります。
- 「接続機器設定」ボタンをタップします。

- 太陽光発電システム、蓄電池を設置した場合
パワーコンディショナ 1～3 の種類、各電力センサーのあり/なし、太陽電池モジュールのシステム容量を設定します。また、「整定値変更」ボタンが選択可能な場合、各整定値を設定します。

- 蓄電池を設置した場合
設定タブに **!** が表示されますので、設定タブ→「蓄電池運転情報設定」ボタンをタップし、契約電力を入力します。

※ 出力制御設定が必要な場合は、モニタで設定する必要があります。設定方法は設置工事マニュアル「太陽光発電システム+クラウド蓄電池システム」をご参照願います。

付録) 主なエラーとその対策

※エラー対応時には該当機器の設置工事マニュアルをご参照ください。

表示	内容原因	確認	対策
F-01	系統不足電圧 (UVR) ①停電 ②パワーコンディショナ専用ブレーカー、主幹ブレーカー断	①出力端子台での受電電圧を確認 (出力端子台の U-O 間、W-O 間) < 整定値以下は正常 > ②上記ブレーカー類が ON か確認。	①停電時は系統電圧の復電まで待つ。電圧が整定値以下の場合、配線を確認し、配線が正常であれば、電力会社に電圧調整を依頼します。 ②ブレーカーを ON にします。
S-00	電力センサー (売電センサー) 無応答 ①停電 ②モニタ・電力センサー設定異常 ③通信ケーブル異常 ④電力センサー異常	①電力センサーの電源端子台に系統電圧の印加を確認。 ②電力センサーがない場合はモニタの電力センサー設定が「電力センサーなし」になっているか確認。電子電力計を使用している場合、ID 設定が正しいか確認。 ③通信ケーブルを交換し、エラーが再発しないか確認。 ④電力センサーを交換し、エラーが再発しないか確認。	①電圧が印加されていない場合は、配線、ブレーカーを確認します。 ②正しい設定にします。 ③通信ケーブルを交換します。 ④電力センサーを交換します。
自動停止中	自動停止のまま起動しない。	入力電圧不足、DIP スイッチ設定異常、通信ケーブル異常、コネクタ接続異常、本体異常の可能性がります。該当パワーコンディショナの設置工事マニュアルを参照してください。	
R-16 ~ R-24	出力制御の異常	出力制御の設定が正しくないか、ネットワークの通信障害が発生しています。LAN ケーブルが外れていないか確認してください。それでも解決しない場合は、設置工事マニュアルの出力制御の説明を参照してください。	